

都会の中学生 & 高校生を 受け入れてみませんか？



南九州市には、毎年たくさんの修学旅行生が県外から訪れています。
修学旅行と聞くと、施設見学というイメージがあるかもしれませんが、南九州市では修学旅行の一部として『田舎体験』をしたい子どもたちの受け入れを行っています。

平成30年度は1,102人の生徒を受け入れました。

受け入れる生徒は、1軒につき3~4人を基本とし、「そのときある仕事」「できる仕事」「命・食の大切さ」を中心としたそれぞれの家庭の“日常の暮らし”を体験していただきます。受け入れは1泊2日もしくは2泊3日で、農家以外の家庭も大丈夫です。特別なサービスはいりません。

『修学旅行生の民泊』を初めて聞いた方や「興味はあるけど、どんなものか知りたい」という方に、その様子の一部を紹介します。



ある学校の様子 (時間は学校によってさまざまです)

1
日

到着・受入式 午後4時30分

受入家庭と子どもたちとの対面。最初はみんなドキドキ。

入浴 午後7時

お風呂でゆっくり体を休めます。地元の温泉に行きます。

団らん 午後8時

子どもたちとひとときの団らん。身近な出来事などいろいろ。

夕食 午後6時

今晚のご飯は自分たちで。おいしい旬の素材を生かした田舎料理は抜群の味。普段は食べない食材もとってもおいしくて、どんどん箸が進みます。

夕食 午後6時

今晚のご飯は自分たちで。おいしい旬の素材を生かした田舎料理は抜群の味。普段は食べない食材もとってもおいしくて、どんどん箸が進みます。

就寝 午後11時

まだまだ話し足りないけれど、明日に備えておやすみなさい。

2
日

朝食 午前8時

鳥のさえずり、風や木々のざわめきなど、都会では聞こえない音で目覚める朝。地元では当たり前のことが、子どもたちにとっては全てが感動体験。これからの作業に備えて、朝からたくさんご飯をいただきます。

農業体験・昼食 午前9時

いよいよ、農業体験。茶揉み、芋苗植え、郷土菓子づくり、非常食づくりなど、それぞれの家庭でその時の季節の作業に取り組みます。作業を通して、農業の大変さや食べ物大切さを実感。

お別れ式 午後1時30分

あっという間の2日間。「ありがとうございました」「また来るね」、そんな声があちらこちらから聞こえてきます。

市内ではこのような活動をされている方々が40世帯ほどいます。普段どおりの生活に家族が増えたという気持ちで接しています。受け入れを通して、子どもたちと触れ合うことで、自分が元気になり、地域が元気になり、そして南九州市が元気になります。

あっという間の2日間。「ありがとうございました」「また来るね」、そんな声があちらこちらから聞こえてきます。



受入家庭のコメント

• まだ受け入れを始めたばかりですが、実り豊かな大地に人々が生きてきた証が色濃く残るここ知覧で、私は地域の人たちの温かなお心と共に生徒さんたちを迎えていると感じます。生徒さんの元気な声や一緒に作った料理の食べっぷりを見ると嬉しくなります。「必ずまた来ます!」の言葉に、身いっぱい力を頂いています。

(知覧町Sさん)

• 我が家に修学旅行生を迎えるようになって早13年。初めは不安でしたが回数を重ねるうちに距離感を掴めてきて、今は地域の子どもを預かるような思いで楽しんで過ごしています。体験は家庭菜園での野菜作り、稲の種まき・稲刈り、芋掘り、名所案内です。田舎暮らしを通して、食・自然・人との繋がりの大切さを感じてもらえたらと思います。

(川辺町Hさん)

• 笑顔を絶やさずこちらから挨拶してゆっくりと話を聞いてあげるようにしながら精一杯の気持ちで接すると、子どもたちへ通じるものです。グリーン・ツーリズムに参加してもう10年が経ちますが、受入れるたびに私が子どもたちに育てられています。お別れの日子どもたちから頂く「ありがとう!」の感謝の言葉、そして涙!たくさんの思い出と宝物です。

(知覧町Uさん)

民泊体験での生徒の手紙、先生のコメント

• 二日間と短い時間でしたが、普段することのない「芋掘り体験」や「非常食の料理を作る」などの貴重な体験をさせてもらい、日常生活での考え方、物事の見方が変わるきっかけとなりました。

• 民泊で感じたことは、お父さんやお母さんがとても優しく、家族のように接してくれてとてもうれしかったです。「現在の日本に足りないものはこれだ!」と思いました。

• 私の家は、あまり夕食をみんなで食べたりしないので、帰ったらみんなで食べようと思います。

• Kagoshimaめっちゃ楽しかった(笑)

• 「修学旅行の中で1番楽しかった事は?」という質問に対して、誰もが「民泊」と答えます。たくさんの貴重な体験のお話しなどをさせていただき本当に感謝しております。(先生)

• 民泊地を予定していた他県から南九州市へ急きょ変更したのですが、「非常食づくり体験」ができるということが決め手となりました。大きな災害を経験した生徒たちにこの体験を日々の心構えとして地元を持ち帰ってもらいたい。(先生)

体験例 非常食づくり

「もしも」・・・

大きな災害に見舞われた時に、無い無いづくしで、全てのライフラインが断られた時。どんな時でも、人は生きていかなければなりません。抗菌除菌の生活用品に囲まれて育った子どもたちや若い世代の人たちにとっては想像ができないくらいの状況になります。

そこで、非常食レシピを作成し、茶の葉、乾パンやじゃがりこなどを使った卵とじやポテトサラダを作ったり、お米を厚手の袋で炊いたりする「非常食づくり体験」を行っています。



修学旅行の民泊ってどんなもの?

交流とコミュニケーション力を育むことが目的であるため、民宿のようなお客様扱いはせず、家族の一員として対応します。子どもたちには本物の作業を手伝わせ、しっかり話をします。

豪華な料理を作り、準備・片付けをしてあげるなど、至れり尽くせりをする必要はありません。普段どおりの暮らしの中で子どもたちと一緒に過ごします。

Q&A

Q. 農家ではないのですが、受け入れできますか?
A. 農家、非農家は問いません。農業体験でなくても田舎体験や名所史跡めぐりを取り入れてもOKです。

Q. 民泊受け入れをするといくらくらいもらえるの?
A. 受け入れの内容にもよりますが、1泊2食で子ども一人当たり6,000円程度です。(1回につき、子ども3~4人を受け入れます)

Q. 子どもたちが怪我をした時などに備えて傷害保険に加入したほうが良いですか?
A. 傷害保険はNPO法人エコ・リンク・アソシエーションで一括して加入します。※自動車保険は個人で加入してください。

南九州市ツーリズム協議会では、受入家庭を募集しています。少しでも興味を持ったら、お気軽にお問い合わせください。あなたも「感動体験」を共有しませんか?

皆さんの申し込みを心からお待ちしています。

【お問い合わせ】(知)商工観光課 交流推進係 (南九州市ツーリズム協議会事務局)